

# News Letter

自治医科大学附属病院 卒後臨床研修センター

令和2年5月

青葉若葉のさわやかな季節となりました。皆様おかわりなくお過ごしでしょうか。

さっそく Newsletter 第27回配信です！ どうぞお楽しみください。

## 〈 診療科紹介 臨床検査科 〉

自治医大臨床検査医学講座についてご紹介いたします。当医局の医師は附属病院内では「臨床検査部」のスタッフとして勤務しています。

臨床検査部は「**検体検査部門**」と「**生理機能検査部門**」に分かれています。「**検体検査部門**」は血液・凝固・輸血・細菌検査・脂質・化学などの分野があり、「**生理機能検査部門**」は心電図・脳波・呼吸生理・超音波検査などの分野があります。

自治医大附属病院臨床検査部での**初期研修の特徴**として、「**超音波検査研修**」があります。研修医は実際に患者さんに探触子をあてて**まず一人で超音波検査**をします。その後すぐに超音波専門医（当院には3人在籍しています）が検査をし、その結果をもとに研修医が検査報告書を書き、チェックをした専門医が内容を確認してからカルテに送信するという、「**ダブルチェック体制**」をとっており、このような研修は他ではできないものです。

もちろん、そのほかの**生理機能検査研修**や**検体検査研修**も可能です。当院には臨床検査専門医が6人おり、充実した研修ができます。

後期研修では、**臨床検査専門医・超音波専門医のダブル取得**を目指して研修します。ダブル専門医は当医局に3人在籍しています。さらに講座で行っている研究は、検体を用いた研究、超音波を用いた計測や細胞への超音波照射の影響の研究に力をいれ、**学位取得の指導**も行っています

COVID-19 診療にかかせないPCR 検査・感染制御や在宅医療における超音波検査など、注目が集まっている臨床検査をぜひ当院で勉強してみませんか？

スタッフ一同、お待ちしております！



## 【医師国家試験予想問題】

- 1 病原体と感染予防策の組合せで誤っているのはどれか。
- a HIV . . . . . 標準予防策<standard precautions>
  - b 麻疹ウイルス . . . . . 空気予防策<airborne precautions>
  - c *Clostridium difficile* . . . . . 接触予防策<contact precautions>
  - d インフルエンザウイルス . . . . . 飛沫予防策<droplet precautions>
  - e SARS-CoV-2 (新型コロナウイルス) . . . . . 空気予防策<airborne precautions>

感染症の診療においては、病原体の感染性の強さ、感染経路・様式、暴露の程度などを考慮して適切な予防策を講じる必要がある。

### 選択肢考察

- Oa HIV は手指衛生による標準予防策でよい。
- Ob 麻疹ウイルスは空気感染するので N95 マスクによる空気予防策が必要である。
- Oc *Clostridium difficile* 感染症では、芽胞の形成により消毒に対して抵抗性で、接触感染による院内感染が問題となりやすい。サージカルマスク、手袋とガウンの着用による十分な接触予防策が必要となる。
- Od インフルエンザウイルスは飛沫感染が主であり、飛沫予防策を行う。
- Xe SARS-CoV-2 (新型コロナウイルス) は飛沫感染が主で、経結膜感染も起こし得るとされるほか、接触感染も重要な感染経路とされるが、一般には空気感染は起こさないと考えられている。したがってサージカルマスクとフェイスシールド (またはゴーグル)、手袋とガウンによる飛沫・接触予防策が必要となるが、マイクロ飛沫の生成し得る気管支鏡検査などの特殊な場合を除いて N95 マスクによる空気予防策は不要とされる。

- 2 腹部超音波像を示す。  
この患者で高値が予想される血液検査項目はどれか。2 つ選べ。

- a アルブミン
- b アンモニア
- c  $\alpha$ -フェトプロテイン<AFP>
- d 血小板
- e 総コレステロール



示された超音波像は肝縁鈍、表面不整、内部不均一な肝臓である。内部には複数の占拠性病変が存在しているように見える。周囲には大量の胸水が貯留している。肝硬変の非代償期で門脈圧亢進症や肝細胞癌の合併が疑われる。

#### 選択肢考察

×a 肝臓における生合成能の低下によりアルブミンは低値となる。

○b 肝臓における代謝の低下と、門脈圧亢進症に伴う門脈-体循環シャントの増加・増大によりアンモニアは高値となりやすい。

○c 慢性肝炎および肝硬変では AFP は上昇する傾向にある。加えて肝細胞癌合併例では高値となることが多い。

×d 肝臓におけるトロンボポエチンの産生低下により血小板は低値となる。

×e 肝臓における生合成能の低下により総コレステロールは低値となる。